

《特集!》 相生山の歴史

今回の特集では、相生山周辺の歴史について紹介します。相生山緑地は、天白区がまだ天白村であった昭和15年に都市計画決定された緑地です。航空写真を中心に相生山緑地とその周辺の変化をみてみましょう。

《昭和30年》



天白村が名古屋市に編入された頃

45年

《平成12年》



《現在》

◆オアシスの森づくり事業

公園緑地として都市計画決定後、長期間を経過しているにもかかわらず事業に着手していない長期未整備公園緑地では、区域内の民有樹林地を土地所有者から借地することにより「オアシスの森」として市民開放し、自然との身近なふれあいの場を提供しています。

オアシスの森では、市民と名古屋市が一体となって、専門家や土地所有者等の助言や協力を得ながら、良好な里山を育てていきます。

出典: なごや緑の基本計画2020(平成23年3月 名古屋市)

《山林火災》

日時 昭和43年4月21日 午後2時半頃
 場所 昭和区天白町野並字稲田 (天白区天白町大字野並字稲田)
 原因 ハイカーたちによるタバコの火の不始末と見られる。
 火災面積 約15ヘクタール (相生山緑地の約12%)
 消火までの時間 約2時間

消火活動の状況

市消防局は第2次出動をかけた昭和消防署などから消防車約10台が駆けつけたが、水がなく、また山道で消防車が接近できないため、ホースを20~30本つなぎ合わせてやっと消火にあたった。

一時、民家に80メートルと火は迫り、愛知県警機動隊1個小隊をはじめ昭和、瑞穂署員など計123人も出動、出火元に近い民家5戸に避難を指示した。



《道路整備の効果》

- ① 消防車等の緊急車両が進出でき、消火活動の拠点が確保されます。
- ② 道路が延焼遮断帯となり、火災の拡大が防げます。

◆地名「相生(あいおい)」

謡曲や古今集等に出る「高砂」や「住の江の松は相生の・・・」などからとられたものと見られ、松に因んだめでたい名称であり、この地に松林が多かったことが分かります。

◆地名「菅田(すげた)」

島田村の支村のひとつの名称で、太古は菅が茂っていた土地であったと想像されます。ここは昔、「嫁師子」という伝統芸能がありました。後継者がいないためか中絶しています。

名古屋市の史跡散策路にもなっています。

《室町～戦国時代》

◆島田城址

島田五丁目に昔の城址の一部を残した小高い丘があります。室町幕府成立のころ、尾張、遠江、越前の三国の守護であり、また管領家であった斯波高経(しばたかつね)が鎌倉街道を押さえる重要な地と考え、この地に城を築かせました。東西76m、南北182mの規模がありました。張州府志には「地元では城主が牧虎蔵であるといわれている」と記述されている。牧氏は足利高経の末流で、尾張守護職斯波氏の一族です。

◆島田地蔵寺(曹洞宗)

嘉吉2年(1442)樵山和尚の創建。延徳3年(1491)天白川の大洪水により、寺殿ごとく破壊されましたが、明応9年(1500)秀賢和尚が本殿を再建、地蔵尊を本尊にまつり地蔵寺と改めました。当時は尾張六地蔵第五番礼所で、雨降地蔵とか毛替地蔵の名で知られています。

《安土・桃山時代》

◆千秋家墓地

平安末期、熱田大宮司・尾張員職(かずもと)の娘と、尾張国の目代・藤原季兼との間に生まれ、熱田大宮司を継いだ藤原季範は、号を千秋と称しました。以後、千秋家を名乗り、明治初期まで熱田大宮司としてその祝職を世襲しました。ちなみに季範の娘は源義朝の室となり頼朝を生みました。

《昭和初期》

◆葉書記念塔

昭和2年8月、新愛知新聞社が「愛知県下の新十名所」を葉書で募集したことがあります。その時、相生山は大変すばらしい景色であるということで、8,507,608通(葉書)の投票がありました。そこで相生山は「新十名所」に入選しました。それを収めたのがこの塔です。

近くにその記念碑がたてられています。碑文には、この地は風光明媚、春秋の遊覧に適すと書かれ、昭和3年11月、高岡徹宗、外2名の名が書かれています。

昭和50年代、この地は相生山自然公園となり、松林と草原で荒れたままに放置してありました。また眼科に住宅団地があるため、往年の戸笠池を見下ろし、遠く田園の向こうに笠寺台地を望む景色は見る事ができなくなりました。

昭和の初めのころ、天白区内で相生山、八事山、島田山の3か所の山林を切り開いて土地開発が行われました。



出典: 名古屋市教育委員会 史跡説明板
 「天白区の歴史」愛知県郷土資料刊行会(浅井金松著)
 昭和58年12月10日発行

史跡散策路 相生山緑地と自然観察コース



出展: <http://www.city.nagoya.jp/tempaku/page/0000001042.html>